

7月の花

これまで、『今月の花』は『団地の植物』のインデックスでしたが、季節を一巡したことで内容を変更します。『団地の植物』は不定期として、これまで取り上げて来なかった植物や特記事項がある時などを中心として、『今月の花』はその月に見られる花（や実）をいち早く取り上げ、植物（樹や草花、園芸種から野草まで）観察の参考となるようにしたいと考えています。

今月は準備に手間取り遅れてしまいましたが、来月以降、なるべく月半ばまでにアップデートし、月後半に新たに見られた場合は追加していくようにしたいと考えています。（ ）内は撮影月日。

なお、植物学では木を木本、草を草本と表示しますが、ここでは単に木を樹木、あるいは高木、中木、低木と、草を草花と記します。そして草花を園芸種と野草に分けることにします。

【高木・中木】



この時期、高中木の花は見られなかったが、トチノキ(左)とナツツバキ(右)の実が見られる。(共に 7/5)

【低木】

〔アジサイ〕ユキノシタ科 北法面、東法面、居住区にも所々あり



日本原産のガクアジサイの花序全体が装飾花に変化した植物。江戸時代後期にヨーロッパ伝えられ、交配により多くの園芸品種が作りだされ、日本に里帰りした。酸性土壌では青みが強く、アルカリ性土壌では赤みが強くなる傾向がある。花期は6~7月。7月中旬には終わりにかけていた。(共に 7/7)

7月の花

〔ガクアジサイ〕日本原産のアジサイ。花期は6~7月。
写真は北東法面 (7/7)。居住区は7号棟前など。



〔カシワバアジサイ〕ユキノシタ科 東法面



葉の形がカシワに似ていることが和名の由来。
花は円錐状あるいはピラミット型につく独自の姿
形をしている。5月から7月に真っ白い花をつけ
る。7月後半にもなると、写真右のように薄茶色
に色づいてくる。

カシワバアジサイは東法面に何カ所も植えられ
ている。 写真上は7/7、下は7/25。



〔ヤマアジサイ・花笠〕ユキノシタ科 東法面



7月の花

アジサイの垂種。葉は一般のアジサイより細めで先がとがっている。東法面の北東部などに多い。

ヤマアジサイはガクアジサイのような花をつけるのが多いようだが、この時期にこんな変わり種が見られた（前ページ写真参照）。インターネットで調べるかぎり、これもヤマアジサイの一種らしい。遠くから見るとカシワバアジサイのように見えるが、前ページのカシワバアジサイのように色づいていなくて、7月下旬でも全体が真っ白。葉も違う。写真は7/25。

主に東法面の北部にアジサイの垂種が混じる。5月にはこんな花も見られた。葉に注意！



（参考）ガクアジサイのようなヤマアジサイ(撮影；左 5/16、中 5/30、右 6/16 ベニガク)

【アベリア】スイカズラ科 8号棟北側階段など



正式にはハナゾノツクバネウツギという。大正年代に渡来。ガク片が羽根つきの「衝羽根(ツクバネ)」に、木の形がウツギに似ていることからついた和名。「ハナゾノ」の方は、花が多く、長く咲いて、花の存在が目立つことに由来する。

写真上は7/15。バス停階段上。

【ビョウヤナギ】オトギリソウ科 3号棟東側、北東法面市道沿い

一見ヤナギに似た繊細な葉と花の美しさから、和名の美容柳の由来となった。和洋どちらのタイプの庭にも向いていて、育てやすいので、よく植えられる。

写真右は7/8 北東法面



7月の花

【シモツケ】バラ科 中央公園、2号棟北側

シモツケの名の由来は、下野（栃木県）で最初に発見されたという説と、下野産のものが古くから栽培されていたという説がある。ブーケのように淡紅色の花が群れ咲き、自然樹形で楽しめる花木。ただしこの時期、花は終わりにかけていた。 写真は7/8 中央公園。



【マンリョウ】ヤブコウジ科 法面・居住区

一般には冬に赤い実がついてから注目されるが、7~8月地味な花をつける。花弁は5枚に見えるが、付け根でまとまっているのだろう、合弁花に分類されている。 写真下左は7/25 東法面
この他、東法面にはブルーベリーの実が見られるが、まだ熟していなかった。 写真下右 7/15



参考書；『大人の園芸 庭木・花木・果樹』小学館、
『山溪ハンディ図鑑 樹に咲く花』、 Wikipedia

【草花・園芸種】

〔ペコニア〕シュウカイドウ科 花壇の花



7月の花

ブラジル原産のベコニア・センパフローレンスから品種改良された。寒さと暑さには弱い、涼しい環境で初夏から秋まで咲き続ける。写真は7/8。

〔ニチニチソウ〕

キョウチクトウ科 花壇の花
西インド諸島原産の多年草だが、日本では冬越しできない。日光を好み、暑さと乾燥に強い。夏から秋にかけて花をつける。

写真は7/8。



〔インパチェンス〕ツリフネソウ科 花壇の花



別名アフリカハウセンカ。熱帯アフリカ原産の多年草だが、寒さにも暑さにも弱い。花期は6月～10月。写真は7/8



花で区別がつかない時は葉に注目する。

ニチニチソウの葉
インパチェンスの葉



〔マリーゴールド〕キク科 花壇の花

メキシコ原産の1年草。夏から秋に花をつける。日当たりと水はけのよい土地を好み、性質が非常に強く、花もたくさんつける。写真は7/8。



7月の花

〔シロタエギク〕キク科 花壇の花

地中海沿岸地帯原産の常緑多年草。寒さには強いが、高温多湿にはやや弱い。茎や葉は緑だが、白い繊毛があり白銀色に見える。6～7月に開花するが、花は摘んで葉を觀賞するようだ。写真は7/8。



〔アガパンサス〕ユリ科 3号棟北側緑地



アフリカ南部原産の多年草。葉は根元に集まってつき、7月頃に葉の間から花茎がのび、先端に多くの花をつける。花の色は青紫色や白色。 写真上は7/7。

〔アカンサス〕キツネノマゴ科 2号棟北西側植込み

地中海沿岸原産の多年草。日当たりと水はけのよい所を好む。6～7月に、写真のように高さ1.5mほどの花茎がのび、唇形の白い花が下から上に咲き上がる。紫褐色の苞には棘がある。

写真右は7/7。



7月の花

〔サルビア〕シソ科 北東法面、花壇

ブラジル原産の多年草。ただし、不耐寒性のため園芸では1年草扱い。花期は夏から秋。写真のように一般には赤色であるが、白から濃紫色までさまざまな品種がある。写真下左 7/8。

〔ブルーサルビア〕シソ科 北東法面、花壇

北アメリカ南部からメキシコ原産の多年草。ただし園芸では1年草扱い。夏から秋にかけて枝先に青紫色の小さな唇形花を多数つける。 写真下右 7/8。



〔アリッサム〕アブラナ科 北東法面、サルビアの脇

一般にスイート・アリッサム。細かい花を密につけ、カーペット状に広がる草花。花は甘い芳香がある。本来は多年草だが、高温多湿に弱く夏には枯れてしまうので秋まき一年草扱い。写真下左、中 7/8

〔ホウセンカ〕ツリフネソウ科 9号棟前

中国南部からインド原産の1年草。江戸時代に渡来して花壇などに植えられている。花の色は桃、赤、紫、白色など。 写真右 7/15。



〔ヒメマツバギク〕ツルナ科 各号棟周り、歩道わき石垣上など

南アフリカ原産の常緑の多年草。耐寒性あり。日当たりのよい石垣や傾斜地に植えられるが、当団地にも随所に植えられている。それには何人もの方の骨折りがあったようだ。花期は6~8月。

「マツバギク」は寒さに弱く、花期が5月上旬のみとのことで、団地の随所に植えられているのは花期が長く、耐寒性もあるので「ヒメマツバギク」という品種と思われる。なお、間違いやすいのは、マツバボタンはスベリヒユ科の1年草で、別の種類である。 写真次ページ左 7/7。

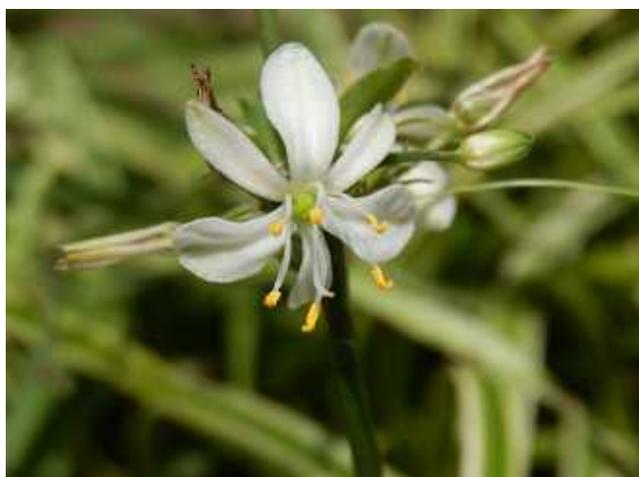
7月の花

〔ヒメヤブラン〕ユリ科 3号棟前の植え込み 写真下右 7/15

日当たりのよい草地などに生える常緑の多年草。同じ様な植物でリュウノヒゲがあり、6,7号棟前や北進入路脇にも土留めとして植えられている。が、この花を見るとヒメヤブランのようだ。



〔オーニソガラム〕ユリ科 8号棟出入口脇のヤブランの中



団地・法面の花を見て行くと、本来ならここにあるべき花ではないのになぜ生えているのだろうと、時として首をかしげたくなる花に出くわす。これはたぶんヤブランの土とともに運ばれたのだろう。

ヨーロッパ～西アジア、アフリカ原産の球根植物。 写真は 7/25。

参考書; 「山溪ポケット図鑑 2 夏の花」、
Wikipedia、他

【草花・野草】

〔アカバナ〕アカバナ科 7号棟西側の通路沿い、
1号棟北側の芝生など

秋に葉が紅紫色に染まることからこの名がある。
花期は7～9月。 写真右は 7/8。



7月の花

〔シロツメグサ〕 マメ科 随所 写真下左 7/25

別名クローバー。江戸時代にオランダからガラス器を送ってきた時、壊れないように乾燥したシロツメグサを詰めものにしたことからこの名が生まれた。ヨーロッパ原産の多年草で、牧草として世界中に広がり、日本でも全国に見られる。花期は5~8月。

〔ムラサキツメグサ〕 マメ科 随所 写真下右 7/7

別名アカツメグサ。牧草として明治初期に渡来し、全国に野生化している多年草。花期は5~8月。



〔イモカタバミ〕 カタバミ科 随所 写真下左 7/8

こちらは濃いピンクの花。南アフリカ原産。江戸時代末期に観賞用として渡来して、以後日本に広く帰化している。根にはイモのような塊茎があり、所々に群生をなし増えていく。5月草取り前に中央広場7号棟寄りに群生をなしていた。花期は4~9月。

〔ムラサキカタバミ〕 カタバミ科 随所 写真下右 7/15

こちらも南アフリカ原産で、江戸時代末期に観賞用として渡来して、関東以西に広く分布している。花の色は淡いピンク、清純な感じの野草。これまで群生をなしているのを見たのは皇居のみで、その他は群れをなしているのを見た事が無い。花期は5~7月。



イモカタバミ(左)とムラサキカタバミ(右)の花の違いを比較してみてください。

7月の花

〔カタバミ〕 カタバミ科 随所

庭や道端などに普通に見られる多年草。クローバーは丸型の葉が3枚であるが、こちらはハート形の葉が3枚、これがカタバミ科植物の特徴。黄色い小さな花、花期は5~7月だが、「団地の植物」でも紹介したように、場所により冬でも花をつけていた。

写真は 7/8



〔ネジバナ〕ラン科 随所

別名モジズリ。花序がねじれていることから。日当たりのよい草地や芝生などに生える。当団地では、1号棟北側芝生、6号棟東側芝生、中央公園通路沿いなど。花期は5~8月、ただし、7月下旬には花の盛りは過ぎたようだ。



写真は 7/8 1号棟北側芝生

〔ヒメヒオウギズイセン (姫檜扇水仙)〕 アヤメ科 随所



写真は 7/7, 7/15 10号棟北側法面

7月の花

ヨーロッパで交配により作られた園芸植物。明治中期に渡来し、暖地に野生化した。耐寒性にすぐれ、繁殖力も旺盛で、日当たりのよい荒地から林床のような日陰、乾燥地帯から湿地にも耐え、全世界で野生化している。10号棟付近の北法面、居住区内にも所々見られる。

〔トキワツユクサ〕ツユクサ科 随所



写真は 7/8 北東法面

南アフリカ原産。日本には昭和初期に観賞用として持ち込まれ、野生化した。3枚の花弁で三角形をなす小さな白い花。やや湿っている日陰や水辺に群生する。当団地では、バス停裏付近の植生ブロックの下部、北東法面の低木の根元、7~8号棟間の北法面、5号棟東の植え込みの根元など、けっこう所々に生えている。一般の図鑑には載っていない。本来なら、ヘブンリーブルーの美しい日本古来のツユクサを紹介したいが、どこも除草されて、なかなかお目にかからない。

〔ドクダミ〕ドクダミ科 随所



写真は 7/8 1号棟北側芝生

毒や痛みを効くということから「毒痛み」が転じたものと言われる。民間薬としてよく利用され、十種の薬効があるという意味から「十薬」とも呼ばれる。半日陰に群生する事が多い。花期は6~7月。

7月の花

〔ノアザミ〕キク科 随所

山野に生える多年草。周囲は除草されているのでなかなか見られないが、東法面に、除草後に1本生えていた。花期は5~8月。 写真下左は 7/25 東法面

〔ヒメジョオン (姫女苑)〕キク科 随所

北アメリカ原産の1~2年草。明治維新の頃渡来し、今では日本中に野生化している。法面にも居住区にもいたるところで見られる。成長し花をつけた様子は雑然として、家人などはピンボウグサと呼んで蔑んでいるが、日本に入ってきた当時は柳葉姫菊と呼ばれ珍重されたらしい。白い花、花期は6~10月。

似た植物にハルジオン(春紫苑)があり、こちらはうっすらと淡紅色を帯びた花が多い。茎を切って、中身が中空ならハルジオン、中身が詰まっているのはヒメジョオン。 写真下右は 7/7 東法面



〔ヘクソカズラ (屁糞蔓)〕アカネ科 法面など 写真は 7/25 東法面



ちょっと見ただけでは花の印象と名前とが合っていないようにもみえる。漢字で示して分かるように、ヘクソは屁・糞、カズラはつる性の植物の意味。花や葉に触れただけでは分からないが、花や葉を引きちぎって、もんだり、つぶしたりしてみると確かに匂う。各自、ご確認あれ。

7月の花

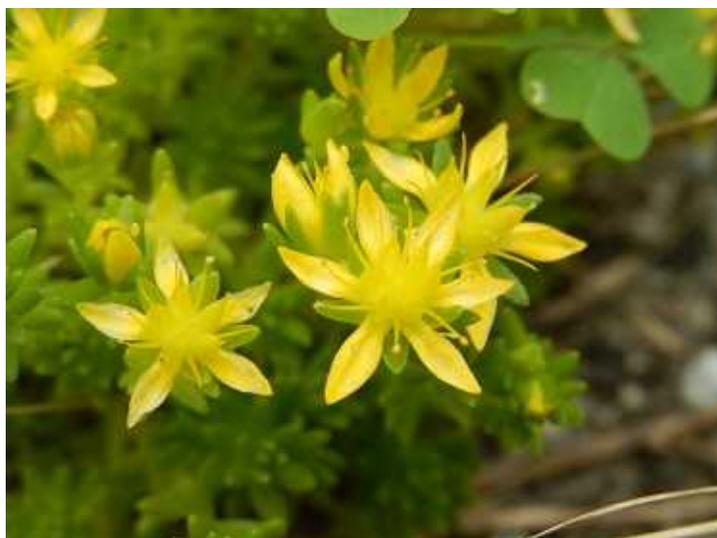
〔ホタルブクロ〕キキョウ科 随所 写真右 7/7

ぶら下がって咲く花を提灯に見立てて、火垂(ホタル; 提灯の古語)をあてたという説と、子供が花の中にホタルを入れて遊んだからという説がある。チョウチンバナ、ツリガネソウなど様々な方言名がある。山野などに生える多年草。写真は1号棟北側駐車場と進入路の間の草地。この他に中央公園や3号棟南東角など、所々に生える。花期は6~7月。



〔マンネグサ〕ベンケイソウ科 石垣の上など

マンネグサは多肉植物で葉や茎に水分をたくわえるため、岩の隙間などの水分の少ないところでも生きられ、常緑であることからマンネグサ(万年草)の名前を持つ。当団地でも石垣の上や道路わきの乾燥した場所に見られる。この草の種類は何種類かあるが、何とすべきか迷っている。



写真は 7/8 1号棟北側石垣の上

〔ワルナスビ〕ナス科 随所

名は棘が多く、始末に困る害草であることによる。北アメリカ原産の多年草。昭和初期に関東地方南部で気づかれ、その後暖かい地方に広がった。当団地でも、当初団地西側の遊歩道に密生していたが、その後、居住区内にも、東法面バス停付近にも見られるようになった。 写真は 7/7 西側遊歩道



参考書;『山溪ハンディ図鑑1 野に咲く花』
HP など

〔写真・文;石川〕